

—ニワトリの発生中のアスコルビン酸
の出現とその微細構造について—

広島大教育 川上いつゑ

食品分析表によれば、鶏卵にはアスコルビン酸(AsA)は含まれない。しかし、これを孵卵しはじめると、AsAは発生にともなって出現する。この事実を定量分析を行なってたしかめた研究者もあるが、演者は硝酸銀を用いてすでに報告した組織化学的な方法によって確かめた。

哺乳動物の成体では AsA の生合成は肝臓のミクロゾームで行なわれ、鳥類・は虫類・両生類では腎臓のミクロゾームで行なわれることはすでに確かめられている。ところが演者はまだ腎臓が完全にできあがらない幼胚すなわち2日の孵卵ですで見出され、3日、4日と AsA はふえ、更に5日になると著しくふえることを確かめえた。AsA の出現部域は眼房水、耳胞脳室、体節の間、大動脈内壁、神経節などに著しい。この AsA の所在は、成体の AsA の所在とは異り、発生途上の組織分化との関連性をもつことが考えられる。そこでこの点を組織の微細構造上から考察したい。

この研究は AsA の生合成の機構を知る上にも役立つであろう。